

平成26年度事務事業評価シート		該当事業(評価対象外事業は基本情報のみ記載)		
		一般事務	公共建設事業	評価対象外事業
事務事業名	(都市文化)都市総合文化施設運営事業			
予算科目	1 款      1 項      1 目			
総合計画での位置付け	都市基盤の整備 都市計画			
所管課情報	担当課:      都市住宅課		電話番号(内線):      567	
記入者情報	所属長:      森下 久史		担当責任者:      三谷 陽紀	
事業の性格	法定事務			
実施期間	【開始年度】 平成 20 年度 【開始年度】 設定なし			
事業の対象	伊予市都市総合文化施設「ウェルピア伊予」及びその利用者			
根拠法令等	伊予市都市総合文化施設条例			
事業の目的	伊予市都市総合文化施設「ウェルピア伊予」の現有施設を有効に利用し、市民等の教養及び文化の向上を図る。			
事業の内容	伊予市都市総合文化施設「ウェルピア伊予」指定管理者の監督指導及び施設の改修等の実施			
改善策の 具体的 取り組み (当初)	ウェルピア伊予を含めた今後のまちづくりの方向性や目標を定めるため、総合計画策定審議会が設置され作業が進められている。平成27年度に第2次総合計画が策定される予定であるため、方向性は決定されなかった。			
改善策の 具体的 取り組み				

事業費及び財源内訳					
項 目		25年度決算	26年度予算	9月末の執行状況	26年度決算
事業費	直接事業費	68,239	59,832	10,691	49,776
	人件費	2,847	3,579	795	3,579
	合計	0	63,411	11,486	53,355
人件費 内訳	人工数	0.35	0.45	0.10	0.45
	人件費単価	8,135	7,954	7,954	7,954
	補助事業人件費	0	0	0	0
	人件費	2,847	3,579	795	3,579
財源内訳	国庫支出金	0	12,000	0	12,000
	県支出金	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0
	一般財源	71,086	51,411	11,486	41,355

事業活動の実績(活動指標)					
項目	単位	25年度実績	26年度予定	9月末の実績	26年度実績
宿泊者数	人	16460	17000	8528	16199
体育館利用者数	人	27052	28000	14465	36029
研修室利用者数	人	57500	58000	29810	59033
納付金	千円	7269	5000	0	4838

向こう5年間の直接事業費の推移						
年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	5年間の実績
	100,000	120,000	120,000	0	0	340,000

成果指標				
成果指標	平成20年度の施設利用者総数(391467人)を100とした係数			
指標設定の考え方	指定管理者に移行してからの利用者数を比較し、次年度の営業、施設運営及び修繕計画等の資料とする。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	目標29年度
目 標	111	120	122	125
実 績	120	120	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	年間の施設利用は、470,507人と多くの方に利用されている。宿泊施設・空調等設備関係の老朽化が著しく更新時期であるが、第2次総合計画の策定が次年度となるため、改修計画が立てられない。計画が策定されるまでは、運営に支障を来たさない範囲での応急的な対応となる。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	施設の老朽化が一段と進み、配管・給湯・空調関係の経年劣化が著しい。軽微で簡易な修繕等については、指定管理者の対応としているが、施設の根幹的な部分の対応は、担保されていないのが現状である。施設運営の最低限の応急処置で凌いでいるのが実情であり、運営には大変苦慮している。第2次総合計画の策定にあわせ施設そのものの方向性を可及的速やかに決定する必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮る。
意見、課題	行政評価委員会抽出事業

行政評価委員会の答申	
外部評価 (行政評価委員会)	<p>・いろんな人に来てもらって、健全に運営してもらえるといい。・事業活動の実績に関しては、再度検討いただきたい。・見た目はまだまだと思うが、施設が古く水回り等も良くない。良い施設なので、是非有効活用を図っていただきたい。・指定管理者にすれば予算が少なくて済むだろうが、それが公共性を害することがないよう、公共性と財源、予算との兼ね合い、業務の責任区分をきちんと管理し、利用者側に不便とか不満とかないよう、気をつけていただきたい。・県文はネーミングライツの原資で大規模修繕が可能となっている。出るを制すだけでなく、入るを量る方策が必要ではないかと思う。アクセスについても、看板一つどうかかけるかにより、随分効果が違ってくると思う。</p>

経営者会議の最終判断	
事業の方向性	下記の点を見直しの上、継続する。
意見、課題	将来の方向性を含め、早急な対策を講じること。